

くまもと未来会議

【テーマ：アジアとつながる】

日 時： 平成25年2月9日（土曜）午後2時30分～午後4時30分

場 所： 熊本全日空ホテル ニュースカイ 2階 「ストリングス」

「アジアとつながる」

熊本県では、「幸せ実感くまもと4カ年戦略」の4つの柱の一つに、「アジアとつながる」を掲げ、「アジアの中で存在感のあるくまもと」をめざしています。

昨今の難しい国際情勢の中で、「アジアに打って出る」、また「アジアから呼び込む」ための方策等について、幅広い御意見をいただきます。

I 出席者名簿

II 参考資料



©2010 熊本県くまモン

I 出席者名簿

(50音順・敬称略)

<委員>

井尻 秀憲	東京外国語大学大学院 教授
数佐 明男	熊本県産業政策顧問
古城 佳子	東京大学大学院総合文化研究科 教授
田中 浩二	九州旅客鉄道株式会社 相談役
橋田 紘一	株式会社九電工 代表取締役社長
松島 正之	ボストンコンサルティンググループ シニア・アドバイザー

<議長>

蒲島 郁夫	熊本県知事
-------	-------

Ⅱ 参考資料

幸せ実感くまもと4力年戦略

“アジアとつながる”

【めざす姿】アジアの中で存在感のあるくまもと

世界の成長センターとしてグローバル経済をけん引していく中国や東南アジアをはじめとする地域とのつながりを積極的に強め、国際的にも通用する人材の育成を図り、アジア市場へ進出することで、地域産業のマーケットや観光誘客を拡大させ、「アジアの中で存在感のあるくまもと」をめざします。

戦略5 アクション・アジア

これまで交流を重ねてきた中国・広西壮族自治区や韓国・忠清南道に加え、上海、香港、シンガポール、台湾などを拠点とし、東アジアのみならず、アセアン（※）地域もターゲットにした海外戦略を積極的に展開し、躍動し成長を続けるアジアの活力を取り込みます。

※東南アジア諸国連合（Association of Southeast Asian Nations）の略。インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオスの10カ国が加盟。

戦略5-①アジアに打って出る

1 p

◆施策1 アジアの市場に打って出る

～新たなマーケットの開拓と交流促進～

1 p

◆施策2 ポートセールスを新体制で展開する

～熊本港・八代港を活用したポートセールスの強化～

7 p

戦略5-②アジアから呼び込む

9 p

◆施策3 観光客を増やす

～アジアをターゲットとした誘客戦略の強化～

9 p

◆施策4 留学生から「選ばれる」まちを創る

～留学生とつながる仕組みづくり～

11 p

<戦略の指標>

	【現状値※（H23）】	【目標（H27）】
1) アジア地域への輸出及び進出を行っている県内企業・農業団体等の数	中国 延べ57 アセアン 延べ27 台湾 延べ16	中国 延べ86 → アセアン 延べ40 台湾 延べ23
2) 延べ外国人宿泊者数 〔うちアジアからの延べ外国人宿泊者数〕	33万人/年（H22） 30万人/年（H22）	→ 60万人/年 55万人/年〕
3) 留学生の数	575人/年	→ 1,000人以上/年

※現状値の出典 1) 貿易実態調査、輸出証明書、農政聞き取りによる輸出企業数及び進出企業数の和より
2) 高等教育コンソーシアム熊本からの報告数より
3) 「ようこそくまもと観光立県推進計画（H24.7月策定）」に掲げる数値より

◆施策1 アジアの市場に打って出る
～新たなマーケットの開拓と交流促進～

1 海外拠点・国際交流

<主な取組み状況>

- 韓国忠清南道とはS58年から国際交流を続けている。
- H24.1月 熊本市、熊本大学と共同で『熊本上海事務所』を開設し、県内企業の中国への事業展開支援など、本格的に活動を開始した。
- 広西壮族自治区とはS57年から国際交流を続けている。
H24.7月 「広西国際友好都市交流大会」に参加するため、熊本～南寧間への直行チャーター便により150名の訪問団で広西壮族自治区を訪問し交流を深めた。
また、広西壮族自治区との経済交流促進覚書を締結した。
H24.8月 活動拠点である『熊本広西館』を開設した。
- H25.1月 知事が台湾を訪問し馬英九総統を表敬訪問したほか、高雄市を訪問し、今後相互交流を深めていくための協議を開始する旨、高雄市長とともに発表を行った。

2 観光需要開拓、観光誘致

<主な取組み状況>

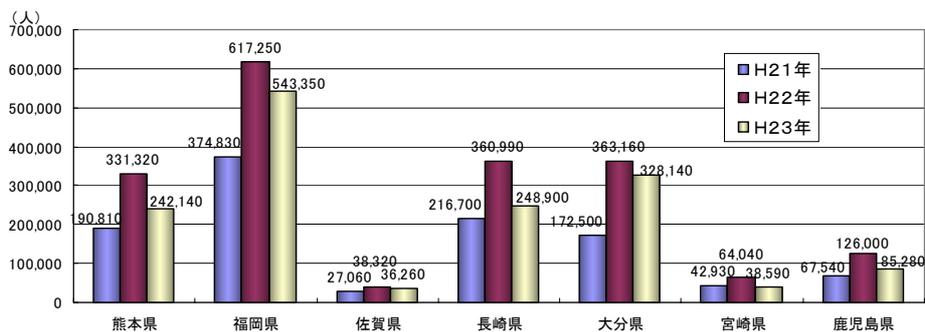
- 九州各県とも連携し、東アジア（韓国・中国・台湾・香港）、アセアン諸国（シンガポール、タイ、マレーシア等）における現地プロモーションや、旅行会社やマスコミの招請事業等を実施している。また、現地旅行会社等とタイアップし、旅行商品の開発・販売促進を支援している。
- フォーリン・プレスセンター、県HP（県内在住のアジア出身者が熊本の魅力を語るインタビュー掲載等（H24.7月～））、中国語メルマガ（H24.8月～）を通じて、熊本の魅力等の情報発信を行っている。
- H24.10月から、県内在住のアジア出身の留学生等を「モンバサダー（※）」に任命し、ブログ、フェイスブック等を通じて熊本の魅力の情報発信を促している。※くまモン+アンバサダー（大使）の造語
- H24.11月 熊本上海事務所と連携して、現地大手旅行会社のキーパーソン等一行の招請事業を実施した。また、熊本広西館で、観光パネル・パンフレット等により、観光PRを行っている。

<参考データ>

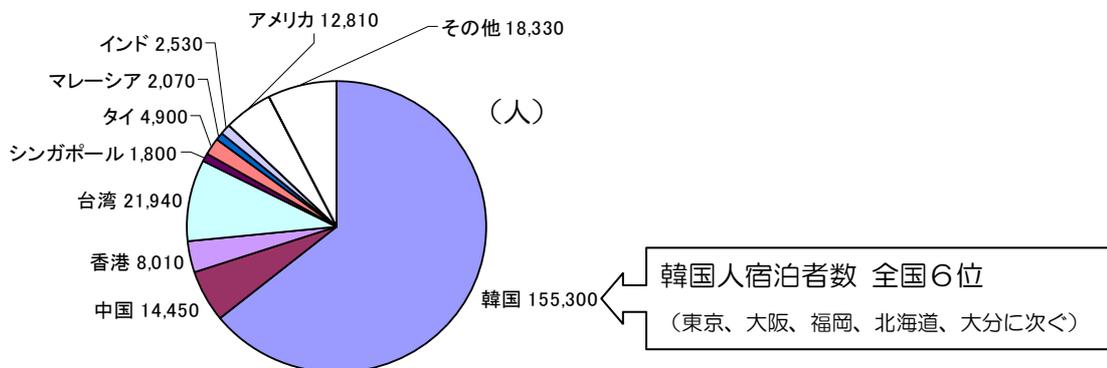
【アジアの事務所等】



【外国人延べ宿泊者数】



【熊本県の国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数（H23年）】



（出典：観光庁 「宿泊旅行統計調査」（従業者数 10 人以上の施設）推計値。参考値、国籍（出身地）不詳含む）

☆関連データを 10P に掲載

3 アドバイザー設置等による相談・支援体制の強化

<主な取組み状況>

- 県、熊本市、金融機関、輸出支援機関等で組織する「熊本輸出支援ネットワーク」の機能を活かして、各輸出支援機関が連携して複合的に販路拡大支援を行っている。
- 輸出を志向する農林水産団体や事業者等を対象に、輸出促進アドバイザーによる巡回指導や輸出促進セミナー等を開催している。
- H24.1月から、熊本上海事務所に設置している工業アドバイザーにより、県内企業の相談への対応や企業訪問同行等の支援、現地企業の訪問による情報収集等を行っている。
- H24.10月 香港、シンガポールに加えて、新たに台湾にビジネスアドバイザーを設置し、海外進出を図る県内企業の支援体制の強化を行っている。
- H24.11月 県・熊本大学・アジア法務サポートセンターの連携に関する協定を締結し、法務面を中心に県内企業の海外展開支援を連携して行っている。

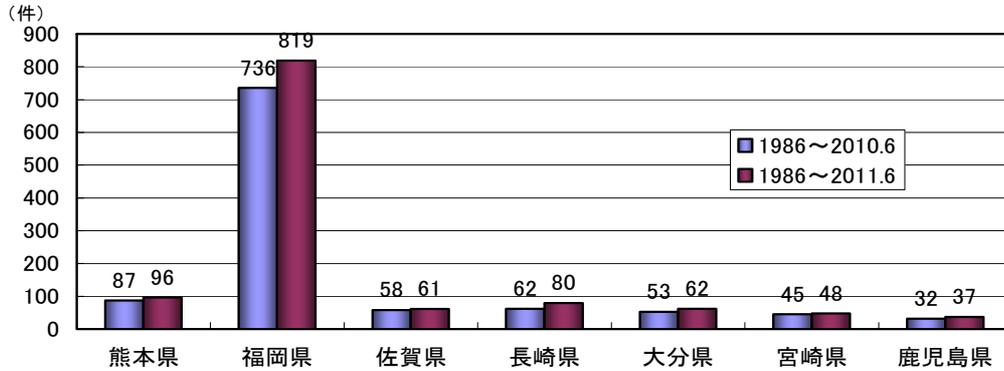
4 輸出品の新たなマーケット開拓、県産品の販売促進、 県内企業の進出支援

<主な取組み状況>

- チャイナプラスワン戦略推進事業及び中小企業海外チャレンジ支援事業等を通じ、県内企業の海外事業展開ニーズ調査及び本県企業の事業展開のベースとなる海外ビジネス環境の情報収集や現地政府系機関やコンサル企業等とのネットワークづくりを行っている。
- H24.10月 県産木材のアジア地域への輸出促進を図るため、「くまもと県産木材輸出促進協議会」を立ち上げた。
- 県産木材のアジア地域への輸出促進を図るため、韓国（H24.12月）、台湾・中国等（H25.2月以降予定）における新たなマーケットの開拓に向けた市場調査等に取り組んでいる。

<参考データ>

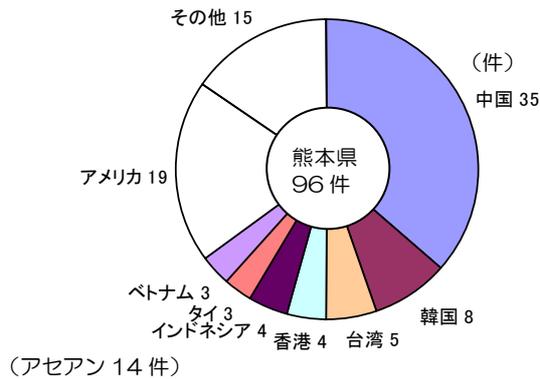
【地場企業の海外進出件数】



(出典：財団法人九州経済調査協会「データ九州 九州・山口企業の海外進出 2010、2011」)
 ※撤退企業は除く。

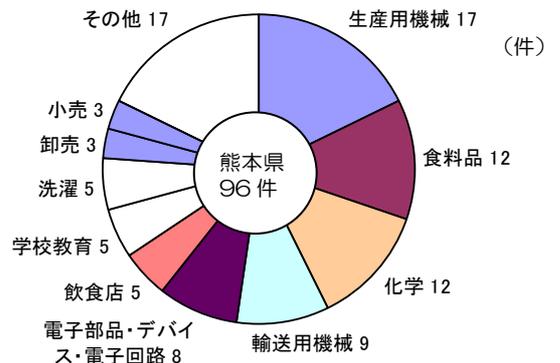
【熊本県地場企業の海外進出先内訳】

(1986年～2011年)



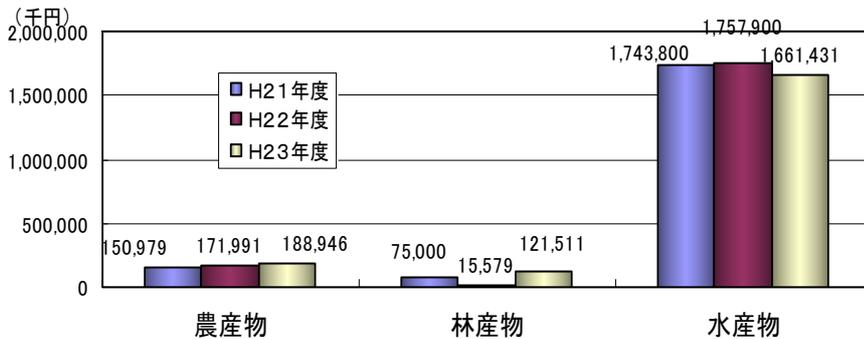
【海外進出した熊本県地場企業の業種別内訳】

(1986年～2011年)



(出典：財団法人九州経済調査協会「データ九州 九州・山口企業の海外進出 2011」)
 ※1986～2011.6月未までに海外へ進出した企業 撤退企業は除く

【熊本県産農林水産物の輸出額】



(出典：流通企画課・林業振興課・水産振興課調べ(県が輸出を把握している団体・業者への調査))

4 輸出品の新たなマーケット開拓、県産品の販売促進、 県内企業の進出支援（つづき）

<主な取組み状況>

- H24.1月から、熊本上海事務所では、九州各県の熊本上海事務所と連携のうえ、イベント出展やくまモンを活用した「熊本」のプロモーション活動を行っている。
- アセアン地域を中心としたアジアへ向けて、中小企業海外チャレンジ支援事業等により県産品の販路拡大や県内企業の進出支援等を展開している。
H24.10月 シンガポールの百貨店にて26社もの県内企業の出展を得て、同地で初となる「熊本フェア」を開催した。2週間での売上額は3千万円を超え、北海道フェアに次ぐ実績をあげるとともに、定番商品としての商談等が始まっている。
- H25.1月 台湾政府関係者及び台湾・香港流通関係者への表敬、また、台湾での知事主催レセプションの開催、現地百貨店における「熊本フェア」の開催、台湾との新規航空路線開設に向けた航空会社へのセールス、台湾の現地旅行関係者等へのくまモンを活用した観光プロモーションなど、知事がトップセールスを行ったほか、台湾バイヤー等100余名を集めて商談会の開催を行うなど、台湾、香港との経済交流の拡大に努めた。
- 香港（H24.11月）及びシンガポール（H25.1月）の百貨店に「くまもと農産物販売コーナー」を設置し、試食販売等を通じて県産農林水産物等の販路開拓のための販売実証を実施した。また、低コスト輸送の可能性を探るため、現在の航空便に代わる船便利用によるコストや鮮度、荷積み等の流通実証を併せて実施した。

＜参考データ＞

【H23年度農林水産物輸出概要】

農産物：香港やシンガポールの既存輸出先への継続的なプロモーションなどにより前年度を上回った。

〔主な品目の輸出実績〕

米 8,947 千円（H22年度 1,327 千円 対前年比 674%）
甘藷 19,422 千円（H22年度 12,145 千円 対前年比 160%）
牛肉 59,822 千円（H22年度 45,692 千円 対前年比 131%）

林産物（木材）：ベトナム、韓国向けにヒノキの丸太を、台湾、中国に主にスギの丸太を輸出。台湾及び中国向けの丸太の販路拡大により、大幅に増加した。

水産物：アメリカ向けの輸出が増加したこと、新たに香港、シンガポール向けの販路開拓等を行ったことにより増加した。

〔主な魚種の輸出実績〕

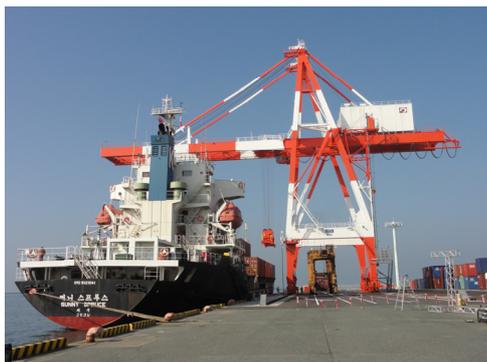
ブリ 1,161,253 千円
（対前年比 110%、水産物輸出額の約 7 割を占める）

◆施策2 ポートセールスを新体制で展開する
 ～熊本港・八代港を活用したポートセールスの強化～

<主な取組み状況>

国際コンテナ利用拡大のための助成事業やトップセールスなど、熊本港、八代港のポートセールスの事業を戦略的に行っている。

- H24.10月 熊本港ではガントリークレーンの供用を開始し、知事によるトップセール、県、港湾関係者、関係企業一体の働きかけにより、H24.12月から、高麗海運の国際コンテナ定期航路が、これまでの週1便から週2便に増便された。(八代港は週2便)
- 八代港では、これまでの水深12m岸壁から、貨物船の大型化に対応する水深14m岸壁・泊地・航路の整備を進めている。
 H25.3月には、その1バース目の整備が完了し、これまで積荷の量を調整して入港していた大型貨物船が、貨物満載で入港できるようになる。



熊本港の
ガントリークレーン



八代港の様子

<参考データ>

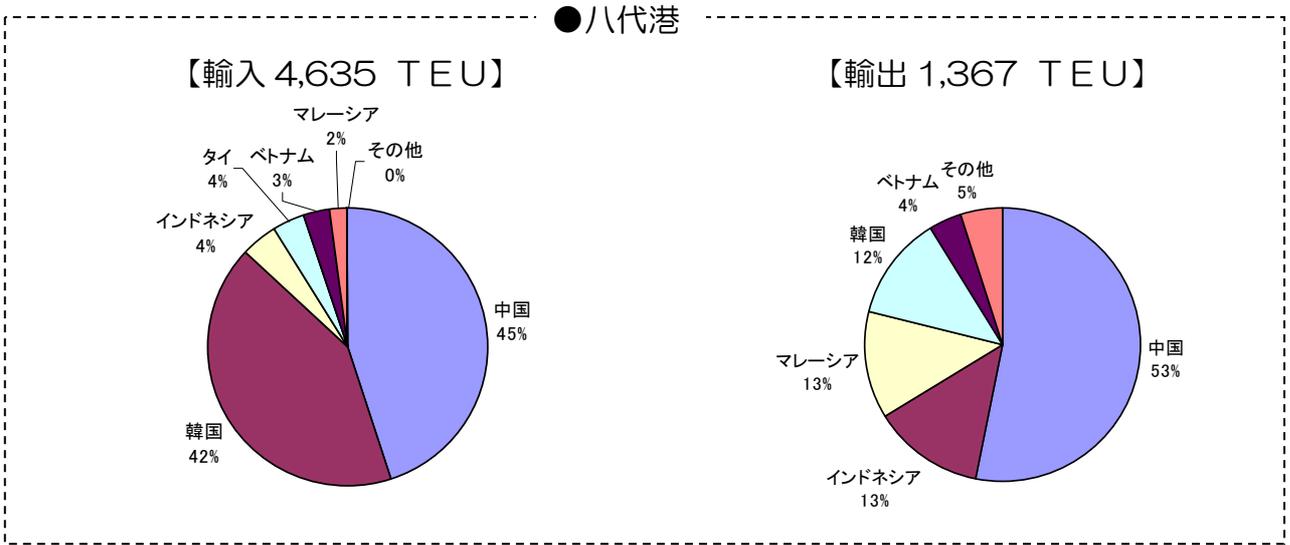
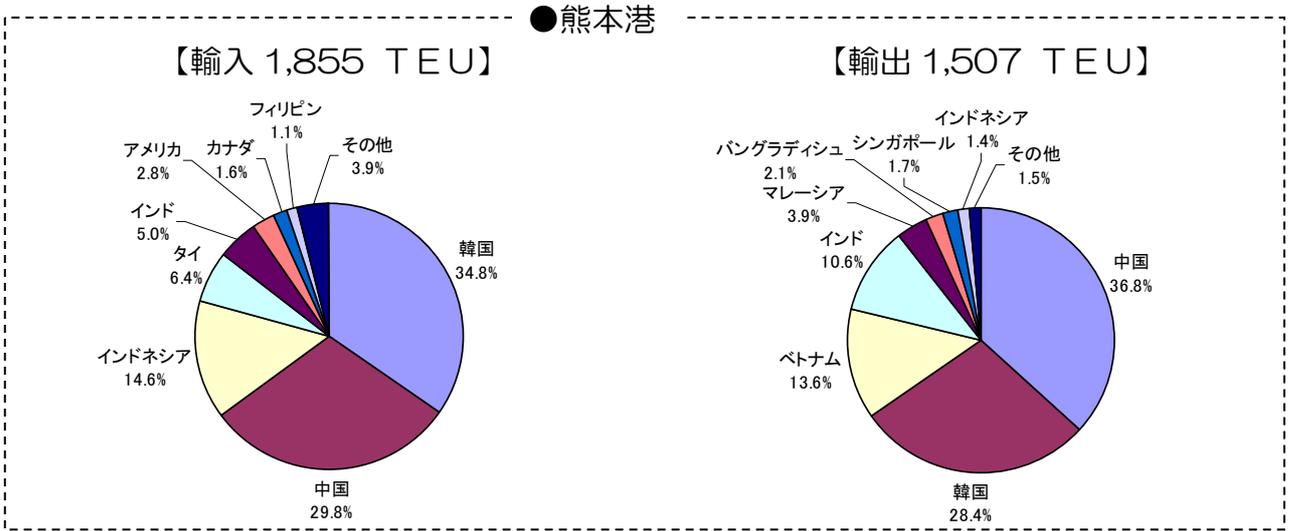
【H23 各港コンテナ取扱量（輸出入計、空コンテナ含む）】

●熊本港	4,699TEU
●八代港	9,463TEU
●博多港	814,094TEU
●北九州港	428,555TEU

(出典：国土交通省港湾局統計情報。空コンテナ含む。20フィートコンテナの1個分を1TEUとする。)

【H23コンテナ取扱量 輸出入（実入り※）の相手国内訳割合】

※実入り：貨物が入っているコンテナ



(出典：熊本県港湾統計より作成。20フィートコンテナの1個分を1TEUとする。)

◆施策3 観光客を増やす
～アジアをターゲットとした誘客戦略の強化～

<主な取組み状況>

- 大空港構想(※)の取組みの一環として、国際航空路線の拡充に向け、様々な取組みを行っている。

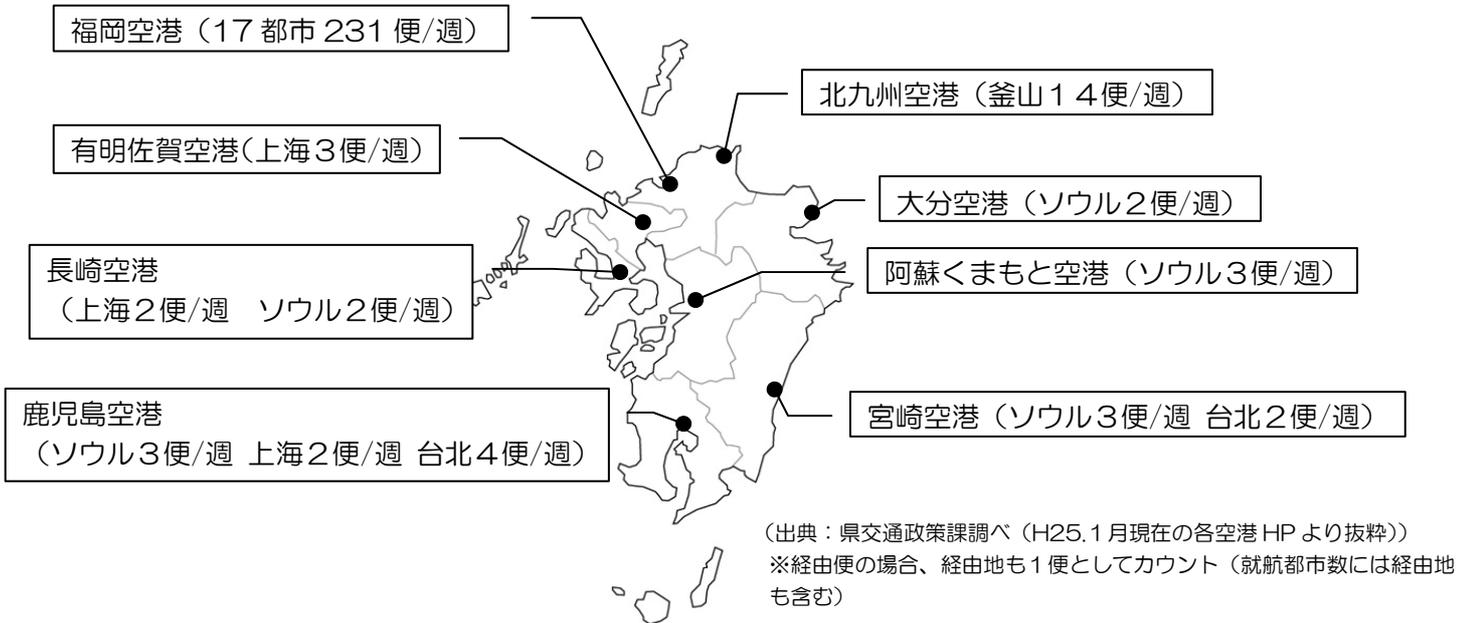
※ 大空港構想

「東アジア・日本全国との交流拡大」等を取組みの方向性として、熊本の空の玄関である阿蘇くまもと空港とその周辺地域の持つ可能性を最大化し、「日本一広く美しい空港」の実現をめざすもの。

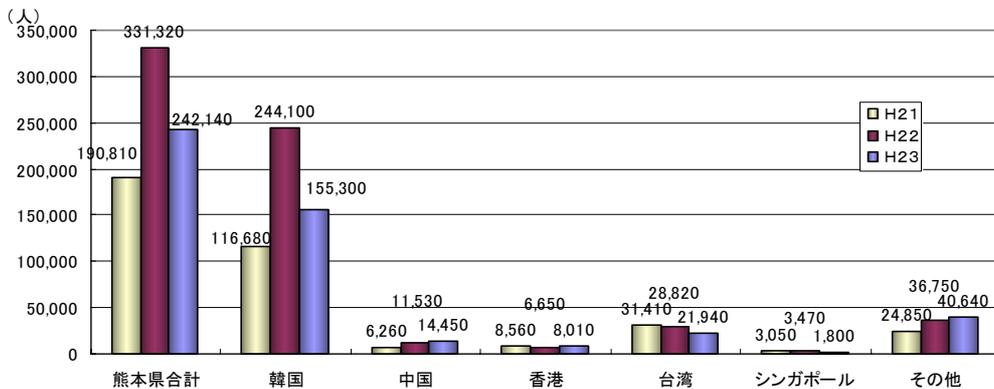
- ソウル線の週5便化実現に向けた各種取組み、新たな国際線誘致に向けた中国、台湾の航空会社へのトップセールスを行っている。
- H24.6月下旬～8月末 台湾からの16便連続チャーター便ツアーを実現し、約1,800人が来熊した。
- 九州各県とも連携し、東アジア(韓国・中国・台湾・香港)、アセアン諸国(シンガポール、タイ、マレーシア等)における現地プロモーションとともに、旅行会社やマスコミの招請事業を実施した。また、現地旅行会社等とタイアップし、旅行商品の開発・販売促進を支援している。(再掲)
- H24.10月 地元関係者と協力し、八代の全国花火競技大会に合わせた、コスタ・クルーズ社の大型クルーズ船入港を実現し、約1,520人が来熊した。
- 多言語標記の観光標識の整備を進めるとともに、多言語コールセンターを活用した案内の取組みとして、県内観光案内所や観光施設などからの外国語(英・中・韓)での問合せに対するモデル事業(H25.1月～3月)を実施している。

<参考データ>

【国際航空ネットワークの展開】



【熊本県の国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数の推移】



(出典：観光庁 「宿泊旅行統計調査」(従業者数10人以上の施設) 推計値。参考値、国籍(出身地)不詳含む)

H23年は、東日本大震災による落ち込みが徐々に回復しつつあるものの、円高等の影響により厳しい状況であるが、平成24.1月～9月は192,080人で、前年同期と比べ11.9%増となっており、増加傾向が見られる。

☆関連データを2Pに掲載

◆施策4 留学生から「選ばれる」まちを創る
～留学生とつながる仕組みづくり～

<主な取組み状況>

- 「くまもと都市戦略会議^{※1}」の「留学生のまちづくり」アクションチームにおいて、県と熊本市、高等教育コンソーシアム熊本^{※2}の3者が合同で、留学生のためのワンストップ窓口の設置やSNSを利用した留学・生活・就職など様々な情報を発信・相互共有できる留学生ネットワークの構築等に向け、検討を進めている。

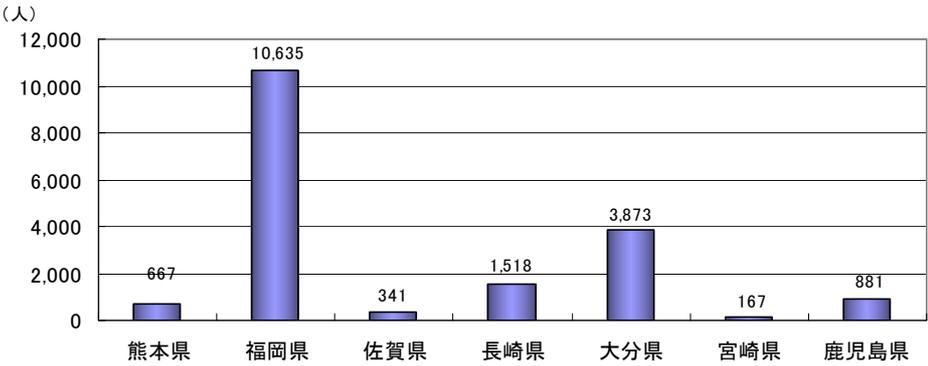
※1 熊本県、熊本市、熊本大学、経済界のトップにより構成される会議

※2 県内の全高等教育機関の連携を目的に設置された組織

- H24.12月 留学生を対象に、海外（特にアジア）に進出する県内中小企業等による就職合同説明会を、高等教育コンソーシアム熊本、九州グローバル産業人材協議会等との共催により開催した。
(県内企業等19社と留学生132人が参加。)

<参考データ>

【H23 年度留学生（※）の数】



※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生をいう。

（出典：独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」）

〔熊本県では、留学生の出身国は中国が過半数を占め、次いで韓国、インドネシア、台湾、ベトナム等となっている。〕